

巻頭レポート ボローニャ絵本見本市 2018



授賞式に出席した、絵本原画展の日本人入選者たち

イタリア・ボローニャで3月26～29日、第55回ボローニャブックフェアが開催された。東京ドーム4個分以上の敷地に77か国1390社が出展し、27000人超が訪れた。現地の模様を伝える。

絵本原画展に日本人10人

ボローニャブックフェアといえば、まず絵本原画展 (Bologna Illustrators' Exhibition) を思い浮かべる人は多いだろう。今年は72か国3053組のイラストレーターから応募があり、25か国77組が入選を果たした。うち日本人は光内亘利さん、盛國泉さん、大越順子さん、酒井りかさん、佐藤文音さん、澤田久奈さん、鈴木さらさん、豊島舞さん、山田和明さん、吉間ゆかりさんの10人。授賞式に出席した佐藤文音さんは、リトグラフで奇妙な猫の世界を表現し通過。「8年間応募しては落ち続け、はじめて通りました。その間に自分の絵も上達し、結果



ボローニャの街を見おろす

日本のマンガをはじめてヨーロッパに招き入れた地は、実はボローニャなのだそうです。

秋葉原の書店イベント会場に1月末、市口桂子さんとスタンザーニ・ピーニ詩文奈^{シモーナ}さんの姿がありました。どちらも、流入黎明期から数え切れないほどの日本マンガをイタリア語訳してきたスペシャリストです。彼女たちのトークイベント「マンガ翻訳というお仕事」で、街の知られざる一面を垣間見ることができました。

「ボローニャに『カップボーイズ』というオタク4人のサークルがありました。山形県のペンパルに送ってもらった単行本マンガをもとに、同人誌を作ってたんですよ」と興奮気味に話すのは、詩文奈さん。彼女は『攻殻機動隊』シリーズ（士郎正宗、講談社）などのイタリア語訳で知られる人物です。そもそも街に最初の日本マンガが入ったのは1980年3月、コミック



咲南ちゃん渾身の「H」(右)と「Z」

午

後4時12分。5歳の咲南^{さな}ちゃんはもう1時間ほど前から、お母さんと一緒に何冊もつづけて絵本を読んでいる。

咲南…ねえ、ハハ、つぎこれよむ。

『大型絵本ひとまねこざるのABC』を持ってきた。さつきから運んできては、長いからとハハ(お母さん)に渋られて、を繰り返していたが、とうとう開いてもらえた。

ハハ…はーあ、これ長いよ？ほら、読むよ。〈…おおきなAに、よつつのあしとながいしっぽをつけるとーあーんとくちをあけたALLIGATOR(わに)になったよ〉……。

咲南ちゃん、じつと聞き入る。絵の中のアルファベットを指でなぞったり、「アリゲイタ」「バード」と楽しげに声に出したり。でも、ちよつと眠い。

午後4時19分。部屋の赤いじゅうたんに寝そべり、エレファントの「E」を、体を使って大きく表現しはじめる。

咲南…あ……！これできるよ、あはっ。ねえ、これ「E」！

ハハ…ははは。ことびだしたら「E」じゃないじゃん。

咲南…あははは！エレファントの「E」！

ハハ…「F」はファイヤーの「F」。

咲南…えふー！「F」だよー！んははっははは。あはははは。

午後4時21分。まったく飽きない。

ハハ…〈おおきなHはHOUSE(いえ)だよ〉。咲南、「H」、簡単なんじゃない？

咲南………えいち！あはは、あははは。

ハハ…おお、きれいきれい。あははは。

午後4時30分ちようど。X、Yときて、ゼブラの「Z」がばっちり決まり、この絵本はおしまい。興奮さめやらぬ様子で、次の『カニツンツン』に手をかける。ハハによれば『大型絵本ひとまねこざるのABC』はたまに読むが、この遊びをしながら読んだのははじめてだった。

咲南ちゃん／5歳／2月、東京都の自宅にて。『大型絵本ひとまねこざるのABC』(H・A・レイ／作・絵、山下明生／訳、岩波書店)……物語にのせて、1見開きに1つのアルファベットが絵と文で示される。70ページ超の絵本。